

NJ 素流協 News

令和4年6月10日

第209号

令和4年6月10日発行・発行所 ノースジャパン素材流通協同組合 〒020-0024 盛岡市菜園1丁目3-6 (農林会館5階)
TEL 019(652)7227 / FAX 019(654)8533 / <http://www.soryukyo.or.jp/index.html>

ノースジャパン素材流通協同組合 第19回通常総会開催

NJ素流協は5月23日、第19回通常総会を盛岡市のホテルメトロポリタン盛岡ニューウイングにおいて開催し、来賓、組合員等約60名が出席した。



会場の様子

1 開会・理事長挨拶

横澤孝一副理事長の開会の辞に続いて、鈴木信哉理事長が次のように挨拶した。

「本来であれば懇親会も開催し

て通常総会を開きたいところだったが、新型コロナウイルスの影響で懇親会は無しという形にさせていただきました。しかしながら、2年ぶりに来賓の方をお招きし、通常通りの総会の開催ができた。

さて、昨今の木材情勢を振り返ると、コロナの影響で、林業界・木材産業界は一度大幅に減産して落ち込んだが、徐々に回復し、昨年9月頃から、外材の不足により国産材の価格が急激に上昇し、この状況が今後どのくらい続くのかということをよく聞かれる。とりわけ、これだけ経済が悪化してくるといふ予測があれば、住宅着工戸数が減り、木材価格が上がっても需要は減るのではないかというのが皆さんの心配事ようだ。ウッドショック・プーチンショックをふまえても、一番の問題点は、国産材比率が非常に低いということ

だ。製材・合板がまだ半分くらいの比率しかないというところが今回のショックを引き起こしている。私は考えている。そういう意味では、今「ウッドチェンジ」といわれている住宅分野を非住宅へ移して拡大していく動き、そして、外国から来た丸太に頼らず国産材で対応する「フロム・ジャパン・フォレスト」、そして、カラマツやアカマツの資源のある東北の山から他地域に丸太を供給していくということを考えてみると、住宅分野の減少は必ずしも林業・木材産業の足かせになるかというところ、そこまではいかならないかと思っ



鈴木理事長挨拶

ている。

そういう意味で、これから様々な情報を皆様にお伝えするのが、当組合の使命と考えている。なおかつ、我々は常にウインウインを目指す、組合員ファーストに徹する、そして、需要・供給側の要望に対して真面目に聞いてコーディネートするのが当組合の理念であり、双方の要望をくみ上げ応えていくのが使命だと思っている。今年度も取組みを強化していきたい。最後に、組合員ファーストの理念、そして、トラックの燃料費の高騰もあるので、議案の中に手数料の引き下げも提出させていただいた。ぜひ皆様方に「指摘・ご議論いただいて今回の総会を無事進めていきたいと思うので、ぜひ議事に対しても、ご協力・ご指導の程よろしくお願い申し上げます。お忙しい中ご出席いただいた来賓の皆様、組合員の皆様に感謝を申し上げます。」

2 感謝状贈呈者の披露

令和3年度の当組合取組みにお

いて多大な協力と貢献をした組合員6名に対して、感謝状と記念品を贈呈し、感謝の意を表した。

▽視察等受入協力者

株式会社中川原商店 代表取締役 中川原繁氏、MG企画 代表 桑畑学氏

▽出荷量上位者

【出荷量】 有限会社丸大県北農林代表取締役 大粒来仁孝氏(用材部門)、株式会社柴田産業 代表取締役 柴田君也氏 (バイオマス部門) 【出荷量伸び率】 栗駒高原森林組合 代表理事組合長 佐藤則明氏、菊鶴合同会社 代表社員 阿部稜氏



感謝状贈呈の組合員様6名が登壇

3 来賓祝辞・祝電

来賓を代表して、東北森林管理局 局長 宮澤俊輔様、岩手県農林水産部 部長 藤代克彦様(代理・技監兼林務担当技監 橋本卓博様)、岩手県森林・林業会議 理事長 中崎和久様(代理・事務局 長 平野潤様)、日本合板工業組合連合会 会長 井上篤博様(代理・セイホク株式会社森林資源部部长 千葉浩信様) から御祝辞を頂いた。

また、株式会社岩手銀行 代表取締役 田口幸雄様、株式会社岩手銀行本店営業部長 岸真英様、株式会社商工組合中央金庫 代表取締役 社長 関根正裕様から御祝電を頂



感謝状と、国産材を使った記念品が贈呈されました

4 議事

議事に先立ち事務局から総会の成立が報告された(組合員207名中、本人出席33名、委任状による代理出席159名)。廣瀬誠氏が議長に選出され、議案の審議・承認が行われた。主な内容は次のとおり。

▽議案第1号「令和3年度事業報告書及び決算関係書類承認の件」

・令和3年度販売事業

①令和3年度の共同販売事業における素材取扱数量は表1のとおり、

表1 令和3年度取扱量(共同販売・システム販売)

区分	合板用(m ²)	製材・集成材用他(m ³)	計(m ³)	バイオマス発電用素材(t)
計画量	225,000	165,000	390,000	130,000
R3実績	226,943	156,109	383,052	121,674
計画比	100.9%	94.6%	98.2%	93.6%
前年実績	178,388	124,827	303,215	110,720
前年比	127.2%	125.1%	126.3%	109.9%

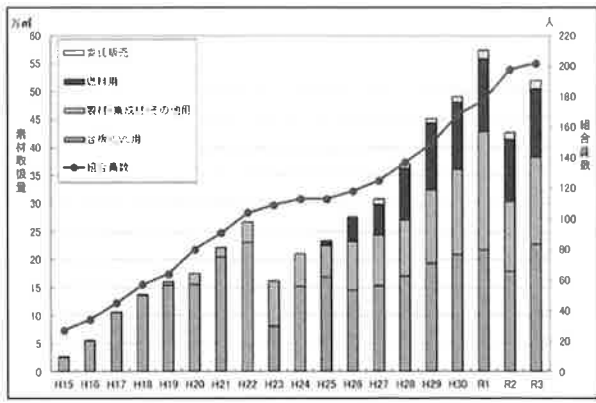


図 素材取扱数量と組合員数の推移

またこれまでの素材取扱数量と組合員数の推移（参考資料）は図のグラフのとおり。

いわゆるウッドショックの影響があったものの、共同販売による取扱量は、バイオマス素材を含めて、計画量52万³m³に対して約50万4千³m³となり、計画比97%となった。さらに、東北森林管理局における委託販売はWEB入札により、1万6千64³m³余りを販売し、令和3年度の取扱総数量は52万790³m³となった（バイオマス材1トン＝1³m³とする）。

東北森林管理局の国有林材システム販売を活用して出荷量の調整や月別出荷量の平準化を図った。また、出荷材の品質維持のため3月に受け入れ検査を実施した。さらに、久慈港の原木置場に、中間土場を開設し、大型トレーラーによる輸送で、遠方の販売先に大量納入が可能になった。

②システム販売等、素材の購入・販売事業に関して、購入・搬出・販売までに要する期間を可能な限り短くすることで回転率を高め、在庫量の抑制と運転資金の借入に頼らない財政基盤の確立に努めた。また、必要に応じて、販売先に対する与信管理を行った。

・ **森林再生に関する事業**

①再造林基金事業の推進として、岩手県森林再生機構の基金造成にかかる協力を徴収し、約1209万円を基金に積み立てた。青森県で創設された「青い森づくり推進機構」と協定を締結し、同機構へ約40万円の協力を拠出した。

②低コスト再造林促進のため、組

合員が行う再造林経費の一部を助成する「再造林促進奨励事業」を実施し、組合員12名に62万円を助成した。

③海岸防災林再生活動として、宮城県名取市にある「ノースジャパン100年復興の森」において月一回の巡視・清掃のほか、10月には、組合員・役職員13名が参加して、標識板設置、下刈り等の作業を行った。

・ **技術指導と調査研究、情報提供に関する事業**

①研修会等の実施
林業経営講座2回、林業講演会2回、多目的造林機械作業実演会2回、自己研鑽研修助成事業9件ほか。現地視察研修は中止した。

②技術指導
合法木材・バイオマス材等の適正供給と供給事業者の認定、NJ素流協「伐採・搬出・再造林作業ガイドライン」の普及、「意欲と能力のある林業経営体」の登録支援、いわて林業アカデミー研修生の受入れ指導、スマート林業に関する

技術指導ほか。

③調査研究
「責任ある素材生産事業体認証（CRL）」導入の取組、青年部会による業務改善等活動推進、原木トラック運送の効率化対策、鳥獣害拡大防止のためのシカ等の出没情報の収集に関する取り組みほか。

④情報提供等
「NJ素流協ニュース」「立木公売情報」発行、地区別組合員会議の開催、国・県等が行う研修会等の情報提供、労働安全衛生に関する情報提供ほか。

・ **受託・協定等に関する事業**

①国産材の安定供給体制の構築に向けた需給情報連絡協議会（林野庁委託事業）

②「令和3年度機械化や大苗等による省力造林モデル及び造林未済地や荒廃農地における造林モデルの構築に向けた調査事業」に係る造林未済地調査候補地の選定に関する現地調査について（一般社団法人 日本森林技術協会）

③災害時における応急対策業務に

関する協定（57組合員の名簿を提出）

▽議案第2号「令和4年度事業計画書及び収支予算決定の件」

【事業計画の基本方針】

令和4年度のが国の経済は、昨年9月末の緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置の解除以降は、持ち直しの動きがみられたが、その後オミクロン株を含めた新型コロナウイルス感染症による経済への下ブレ影響もあり、今後は、これまで通り新型コロナウイルスの感染拡大に注意を払いながら、ウィズコロナの下での社会経済活動の再開・継続を図りつつ、防災・減災、国土強靱化の推進など安全・安心を確保するとともに、持続的な成長軌道に乗せていく情勢にある。

木材の流通については、昨年春季までの合板産業の中期の見通しによる木材価格の低迷から一転して、原木・製品の輸入不足に伴う価格高騰による国産材の需要の急増に対して、供給側の素材生産が追い付かず、需要に十分に応えられな

い通称ウッドショックという社会現象が発生した。

年度半ばからは、製材、集成材、合板、LVLの大型工場のフル生産が続き、木材加工や製材業においても国産材による外材の代替、従業員の確保や人工乾燥施設の容量不足など様々な問題が顕在化した。

さらに、年度後半には産業用丸太の最大輸出国であるロシアのウクライナ侵攻があり、見通しが立ちにくい状況にある。

こうした情勢下で、ウッドショックの収束後を見据え、需要・雇用の創出はもとより、建築における設計変更や新たな知見による木材利用の促進等も図り、川上・川中・川下を結ぶ情報流を更に充実させて、「強い森林・林業・木材産業」を構築していくことが喫緊の課題となっている。

わが国の林業・木材産業は、戦後に先人達が造成した人工林の多くが本格的な利用期を迎え、この豊富な森林資源を「伐って、使って、植える」という形で持続的に

循環利用することを通じて、森林経営管理制度を推進するとともに国産材利用や基盤整備の促進、主伐・再造林の推進等を図り、森林資源の適切な管理と林業の成長産業化の実現を図ることが重要となっている。

また、頻発する自然災害に対し、国土強靱化対策の加速化を図る必要があり、災害に強い森林づくり、森林の持つ公益的機能に対する国民の期待も高まっており、森林整備・保全の推進が強く望まれている。

さらに、地球温暖化防止に向けた脱炭素社会の実現を図るため、公共建築物等木材利用促進法が改正され、再生産可能な生物資源である木材の更なる利用促進を目的として、その対象を民間建築物にまで拡大している。

このような流れを確実なものとし、国産材の安定かつ循環利用に向けた体制の構築を図るとともに、国内の森林、林業、木材産業の体制強化が最大の課題である。

このような状況に適切に対応するため、ノースジャパン素材流通協同組合は、組合のローガンである

・「A〜D材までのすべてを活用する」

・「組合員ファーストを理念とする」

・「ギブ・アンド・ギブに徹する」を継続するとともに、「売り手良し、買い手良し、地域良し」の三方良しに加えて、せっかく育った木に正当な評価を与える「丸太良し」の四方良しを引き続き目指す。

あわせて次の10の課題を令和4年度に取り組む具体的テーマとして捉え、情報流組織として事業展開を進める。

①合板・LVLの国産材化の更なる進展に努める。

②ヒノキ以外の土台材の国産材化の進展に努める。

③外材が主流を占める集成材の国産材利用の進展に努める。

④鉄骨造・RC造に代わる国産材木造建築物の普及に努める。

⑤広葉樹の用材・原料材の適切な

分別を指導するとともに、国産広葉樹材利用の進展に努める。

⑥短コロから小径木まで、薪材・新用途チップ・木質バイオマス用材等の利用を促進し、全木・全幹

の利用により山元価格の上昇を図る。

⑦意欲と能力のある林業経営者の認定に協力し、林業事業体の体質強化を促進する。

⑧青年部会の活動を充実させ、後継者の育成に努める。

⑨盛岡宣言の実現を図るとともに、再造林を進めるための各種取り組みを加速させる。

⑩川上・川中・川下を結ぶ情報流の更なる充実

以上を踏まえ、当組合の活動エリアにおいて、安定した需要に対応した丸太の供給に努めるとともに、組合員の発展のため、求められる丸太の質・量・価格の安定供給先の確保だけでなく、後継者の育成、新需要の開発、各種資格の取得、各種学習したいことへの協力等、ありとあらゆる組合員の悩

み事に、役職員一同真摯に対応していくことを基本方針とする。

【事業計画】

・令和4年度の共同販売計画量は表2のとおり。

表2 令和4年度共同販売計画量

区分	計画量
合板用素材	240,000m ³
製材・集成材用素材・その他	175,000m ³
計	415,000m ³
バイオマス発電用素材	135,000 t

・東北森林管理局等委託販売業務において素材3万1400m³を取り扱う。

・再造林基金事業等、森林再生に関する事業に引き続き取り組む。

・組合員の林業技術の向上と経営改善を図るため、引き続き各種研修を行う。

・素材生産、森林整備、木材流通が抱える課題の解決に向け、「責任ある素材生産事業体認証(CRL)」の全国組織活動への協力と導入、青年部会活動の推進、原木トラック運送の効率化対策や課題解決に

かかる活動等に引き続き取り組む。各種情報の提供、受託・協定等に関する事業に引き続き取り組む。

▽議案第3号「令和4年度手数料決定の件」

共同販売の手数料については、販売代金の3・25%以内(消費税別)とする。

※6月分からの手数料率は2・5%とする。

▽議案第8号「定款の一部変更の件」

第3条「本組合の地区」の区域に、福島県が新たに追加。

▽議案第9号「賛助会員規約の一部変更の件」

賛助会員の会費の金額は4万5000円(消費税別)とする

▽議案第10号「役員改選の件」

新役員12名は表3のとおり。

5 下山顧問退任の花束贈呈
長年、素流協設立からご尽力いただいた下山裕司顧問が任期満了を迎えた。総会の最後に、感謝の意を込め、素流協職員から花束が贈呈された。

退任の挨拶では、次のように述べた。

表3 新役員名簿(二役以外の氏名は五十音順、敬称略)

役職名	氏名	所属団体
理事長	鈴木 信 哉	ノースジャパン素材流通協同組合
副理事長	横 澤 孝 一	横澤林業(株)
理 事	大粒来 仁 孝	(有)丸大県北農林
理 事	川 崎 幸 宏	青森県森林整備事業協同組合
理 事	小 林 拓 夫	(株)昭林
理 事	島 崎 祐 男	(株)石川組
理 事	角 掛 勇 吉	岩手県国有林材生産協同組合連合会
理 事	坪 晃	青森県国有林材生産協同組合
理 事	野 邑 計	(有)道又林業
理 事	山 田 一 宝	(有)山一木材
監 事	小野寺 徳 治	(株)小野寺林業
監 事	谷 地 讓	(有)谷地林業

「皆さまのご協力とご支援でここまで素流協が大きくなったことは、感慨深いものがある。今後は引き続き、森林・林業関係を中心にやりたいことをやっていきたい。これまでたいへんお世話になりました。ありがとうございました。」



下山顧問、長い間ありがとうございました!!

トピックス

東北地区原木トラック
運送協議会
第6回通常総会開催

令和4年5月23日、盛岡市のホテ

ルメトロポリタン盛岡ニューウイングで、東北地域の原木運送事業者で構成される東北地区原木トラック運送協議会の第6回通常総会が開催された。

開会にあたり、松田会長から「東北森林管理局への要望活動の成果が表れ、林道の維持管理に対する具体的な取組（敷鉄板の貸出）が計画された。また、今後の課題として、ドライバーの安全確保、労働環境の改善、2年後に施行される時間外労働の罰則付き上限の問題など課題が山積している。今後も皆さんの協力を得て取組を進めていきたい」と挨拶があり、続いて、来賓のノースジャパン素材流通協同組合 鈴木理事長から「日本の原木運送トラックは、外材輸入が始まる前までは、原木運送トラックが大きく活躍した。そういう意味で国産材時代を迎えるに当たって、原木運送のトラック業界を林野の行政の中に入れ込まなければならぬ。また、国への要望・トラックメーカーへの陳情など、皆さんの要望活動ができていく場所については、



トラック運送協議会 総会の様子

この協議会を通して協力していきたい。」と祝辞があった。

この後、松田会長を議長とし、議事が進められ、議案第1号(令和3年度事業報告)では、東北森林管理局の職員、林道プロジェクトチームとの合同現地検討会の開催、林業大学校や林業アカデミーのインターシップの受入れ等を報告し収支決算と合わせて承認された。

続いて、第2号議案(令和4年度事業計画)について、林野庁・東北森林管理局への要望活動、林道の維持管理の取組等の計画が予算案とともに承認された。

続いて、第3号議案(規程の一部変

更)について、協議会役員の任期中に事業主が変更になった場合は、その任期中は会長が職務代行する。を加えることで承認された。

その他の事項では、「林道の維持管理の取組 敷鉄板の使用方法」について説明があった。また、トラック積載量・大型免許取得年齢の改正について情報提供があった。

災害協定協力者名簿
を提出

当組合は、大規模な災害により発生した流木や流出丸太の除去など、当組合の専門分野で県の災害応急対策業務に協力するため、平成31年3月28日に岩手県知事と「災害時における応急対策業務に関する協定」を締結しました。

今年度は74組合員から協力の意向報告をいただき、4月28日、岩手県に協力者名簿を提出いたしました。ご協力ありがとうございました。

全素協第48回総会に
出席



昨年10月から、林産物に関するマ

月刊「モクレポ」のご紹介

お知らせ

5月19日、全国素材生産業協同組合連合会の第48回総会が東京都において開催され、当組合から鈴木理事長が出席した。
令和3年度事業活動報告と収支、令和4年度事業計画と収支予算がそれぞれ承認され、役員改選が行われた。

5月19日、全国素材生産業協同組合連合会の第48回総会が東京都において開催され、当組合から鈴木理事長が出席した。

モクレポは、木材需給、木材価格、

木材産業の動向等に関する情報等を

広く提供し、より多くの方々に森林・

林業・木材産業に関する政策や事業

活動状況の理解を深めて戴くため、

木材利用に特化した情報を満載した

月刊レポートです。

構成は、タイムリーな話題を提供

する「特集」、01基礎的指標、02木材

価格情報、03木材需給情報、04林産

物の輸出入情報、05特用林産物情報、

06セミナー・イベントの情報、お知

らせです。01〜05の指標・情報の動

向については、これまでの経過と最

新データ(公表数値)が、ひと目で

分かるようにグラフ化されています。

「モクレポ」は、各種の木材情報

の確認にうってつけのレポートです。

お役立てください。

例えば、住宅着工戸数は？、海外

の着工戸数は？、為替相場は？、01、

原木や製品の価格は？、02、需要量

と供給量は？、03、輸入量は？、ロ

CONTENTS 令和4年5月号		
特集	1 建築物における木材の利用の促進に向けた取組	特集1
	2 「森林×脱炭素チャレンジ2022」受賞者決定	特集2
	3 「合法伐採木材等の流通及び利用に係る検討会」による中間とりまとめと合法性確認の手法	特集3
01	4 2022年3月のロシアからの木材輸入実績	特集4
	5 素材生産費と労働生産性の動向	特集5
	6 「みどりの月間」の取組	特集6
	基礎的指標	基礎1
	1 新設住宅着工戸数	基礎2
	2 新設住宅着工床面積 <参考>非居住用建築物着工床面積	基礎3
02	3 木材産業の業況	基礎4
	4 USドル及びユーロの為替相場	基礎5
	5 米国民間新設住宅着工戸数、日本向けコンテナ運賃	基礎6
	6 中国の木材輸入量、EUにおける建設活動水準	基礎7
	木材需給情報	需給1
	1 スギ・ヒノキ原木の主要市場価格	需給2
03	2 木材価格、製品価格 <参考>都道府県別データ	需給3
	木材需給情報	需給4
	1 需要量、供給量、自給率の動向	需給5
	2 地域の木材需給動向(各森林管理局からの報告)	需給6
	3 製材工場の原木入荷、製品生産等の動向	需給7
	4 合板工場の原木入荷、製品生産等の動向	需給8
	5 チップ工場の原木入荷、製品生産等の動向	需給9
	6 間伐材等由来の木質バイオマス燃料利用量、紙品種別生産高	需給10
7 素材生産量	需給11	
8 木材生産の産出額	需給12	
04	林産物輸出入情報	輸出入1
	1 林産物輸出額	輸出入2
	2 木材輸出額	輸出入3
	3 木材輸入額	輸出入4
	4 木材輸入量	輸出入5
05	5 製材・構造用集成材・合板の輸入平均単価	輸出入6
	特用林産物情報	特産1
	1 特用林産物の国内生産量	特産2
	2 特用林産物の産出額	特産3
	3 特用林産物の輸出入量	特産4
	4 特用林産物の輸出額	特産5
	5 まのこ類の卸売量・価格	特産6
06	セミナー・イベント情報	06
	5月中旬以降の開催情報	06

モクレポ 実際の目次の画像

シア材は？、04、きのこは？、05、イベント情報は？、06へ、こんな感じで調べられます。まとめて月別の最新情報を得られるのもGOODですね！

項目ごとの内容は以下のとおりです。

「特集」は、木材需給、木材利用、合法伐採木材、木材輸入など木材関連はもちろん、そのほか地球温暖化対策、森林環境税など最先端の話題

01. 基礎的指標

新設住宅着工戸数とその着工面積、木材産業の業況、為替相場、米国、中国、EUにおける木材の利用状況の最新データとこれまでの動向など

02. 木材価格情報

スギ・ヒノキ原木の主要市場価格や森林管理局からの最新情報に基づく地域の木材需給動向、主要都道府県における木材価格・製品価格(主要樹種丸太・正角、針葉樹合板、集成管柱など)

03. 木材需給情報

需給量、供給量、自給率の動向、森林管理局からの最新情報に基づく地域の木材需給動向、製材工場・合板工場・チップ工場の原木入荷と

製品生産等の動向、間伐材等由来の木質バイオマス燃料利用量、紙品種別生産高、素材生産量とその産出額

04・林産物輸出入情報
林産物輸出額・木材輸出額、木材輸入量と輸出額、製材・構造成材・合板の輸入平均単価

05・特用林産情報
特用林産物の国内生産量と産出額、輸出入量と輸出額、きのこ類の卸売量・価格

06・セミナー・イベント情報
これから全国各地で行われる林野庁関係の各種セミナー・イベントを紹介

最後に「お知らせ」です。
5月号の「お知らせ」は、「緑の募金」と今話題となっている「きのこの原産地表示」をイラスト解説した

林野庁 モクレポ
<https://www.rinya.maff.go.jp/j/kikaku/toukei/monthlyreport.html>



「しいたけからの大事なお話」となっています。

林道の維持管理の取組に関する協定

原木運送を効率的に行うためには、林道の維持管理が効果的であることから、東北森林管理局と東北地区原木トラック運送協議会において、「林道維持管理の取組に関する協定（敷鉄板の貸出）」を締結しました。林道に貸出用の敷鉄板を設置し、迅速な原木運送と林道の補修等維持管理費の低減、運搬の効果に係る検証を実施します。

「第5回伐採搬出・再造林ガイドラインサミット東京大会」の開催が決定！

今般、伐採搬出・再造林ガイドライン全国連絡会議の主催による東京大会が次のとおり決定したのでお知らせします。

【日時】6月27日

14時30分～17時00分

【場所】ホテルメトロポリタン
エドモント2階万里の間
(千代田区飯田橋)

その他：資料代3千円、懇親会1万円の予定(定員最大300名)

令和4年度地区別組合員会議の開催について

本年度の地区別組合員会議を6会場で開催します。詳細は別途お送りしている案内文書をご覧ください。

場 所	日 時	会 場
青森県十和田市	6月14日(火) 13:00～	サン・ロイヤルとわだ(孔雀の間)
宮城県大崎市	6月15日(水) 13:00～	鳴子公民館(ホール)
岩手県八幡平市	6月16日(木) 13:00～	荒屋コミュニティセンター(体育館)
岩手県住田町	6月23日(木) 13:00～	住田町農林会館(多目的ホール)
岩手県久慈市	6月24日(金) 13:00～	久慈市文化会館アンバーホール(第1～3会議室)
秋田県大館市	6月30日(木) 13:00～	大館市北地区コミュニティセンター(研修室)

カラマツ出材のご協力を！

ロシアからのカラマツ単板の禁輸の影響により、合板、集成材工場では、カラマツ原木が非常に不足しております。日本では、年間25万㎡もの膨大な数量の単板を輸入しておりましたが、ロシア側は、年内輸出禁止を決定。工場としてもかなりの痛手です。当組合といたしましても、国産材の安定供給、納入工場からの発注に応えるべく、組合員の皆様には、出材のご協力を何卒、宜しくお願い致します。

国有林素材のWEB入札にご参加ください！

今年度は、岩手北部・盛岡・岩手南部・遠野・宮城北部署管内に加え、新たに三陸北部・仙台署管内の素材、合わせて約31,400㎡を販売いたします。入札の方法は「WEB入札」となります。ログイン用IDが必要となりますので、入札を希望される方は営業企画部までご連絡下さい。素流協ホームページからID発行依頼書をダウンロードする事もできます。

皆様のご参加をお待ちしております！

ちよつと気になる木の話

71

公共土木工事の

膨大な支障木を考える

— 植林した後、
長年かけて育った木は？ —

いつも書いている杭材・沈床工等の土木用木材とは、今回は視点を変えた支障木の話である。

林野公共においても、国有林では、林道、治山工事支障木は事前に立木販売が実行されるが、ほとんど不落札である。搬出路が無い上に、物件の中が狭く・長く数量も少ないことから、経費を考えると採算性が合わないことが大きな理由である。結果、支障木伐採費用は工事費に含まれて土木業者が伐採を担うこととなる。当然、工事優先のため、2 mや短尺にバチバチ切断されて、工事支障木として現場に積層される形となることが多い。林道開設後に販売される立木と価値は一緒であるが、価値は下がってしまう。ここに、素材生産業者が入れば経費を工事費で負担しながら、利益が出せそうな気がするの私だけだろうか？

一方、民有林森林土木工事での支障木伐採情報は、公開されているのを殆ど見掛けない。土地の所有権が移転しなければ、当然かもしれないが、この支障木も気になるところである。仮に、広葉樹大径材の銘木クラス1本でもあれば、尚更である。

しかし、今回の主題は、このことではない。東日本大震災からの復興を目指して三陸沿岸道路等巨大な土木工事が行われた。他にも大水害の後の河川工事等国土交通省予算にかかわる土木工事の支障木である。たまに公売物件として広告される場合も見受けられるが、巨大な物件の場合のみといっても良い。採材は短尺材の2 m採材が多く、用材と原料材を気にして採材したり、植積みをキチツと仕分けしている例は少ない。それでも大型物件は、素材生産業者が工事関係から請負っているケースが多く、まだしっかりしていると思われる。そこで、国直轄事業以外の都道府県・市町村事業主体の補助事業の公売物件は見かけることはない。伐られた支障木も長年育った(育てた)キチツとした立

木である。工事終了後、道路や河川の周りの残っている林分をみれば一目瞭然である。どこへ消えたんだろうか？産業廃棄物扱いなんだろうか？

最近の豪雨災害では、河川敷の立木が水で倒され流木となるケースが多く、河川敷内の立木を伐採するシーンも見かけるが、この扱いは森林由来ではないので、林業関係者の関心は少ない。河川敷の立木は、山の森林から出る養分が常に補充されることから成長も良く、今話題の早生樹の見本と言っても良いクラスである。この利用も、30年単位で計画されれば、計画伐採として、未利用材32円材としてバイオマス利用も可能かなと思えてならない。災害防止と地球温暖化防止のダブルメリット工事がななく。

この他にも、電力会社の鉄塔敷や管理道路、線下補償エリアの支障木伐採もあるが、利用の話は余り聞かえてこない。ネクスコの法面伐採木もネクスコでは、証明書の発行は行われていない。事業当事者にしては、このような支障木は事業目的とは関係がない邪魔者処分であり、役立たずな捨てるものとの認識だと思われる。

JRは国鉄時代、林学出身を採用して防風・防雪・防潮対策等で線路脇に林を造成、維持管理していたが、その植え替えのための処分広告を見かけることは無い(私が知らないだけかも)。不思議とドイツトウヒが多いのも特徴だが、現在合板工場でもドイツトウヒは活用していただけ。日本の管柱の主流は欧州材のWWであり、製材にも活用できかなあ？

防風林のドイツトウヒで作った木材を大宮駅内の店舗で活用した報道の記事はあるが、本格的利用は、まだまだかなあ。

ここまで、長々と述べてきたが、実は、公共(的)土木工事における支障木の量は膨大である。これに、携わる行政、工事会社、電力、高速道路、鉄道会社の関係者への日本の林業の現状、地球温暖化対策、脱炭素社会対策、とりわけ木材の利用の実態と価格について学習の場の提供が必須である。問題は、だが「必殺仕掛け人」になるかである。「NJ素流協が目指す」せつかく育った木を役立たせてあげたい「丸太良し」の気持ちである。

令和4年5月分の販売実績

樹種	合板・LVL用			製材・集成材・その他用			計		
	当月出荷量 (m³)	前月比 (%)	前年同月比 (%)	当月出荷量 (m³)	前月比 (%)	前年同月比 (%)	当月出荷量 (m³)	前月比 (%)	前年同月比 (%)
スギ	14,469	88.9	136.6	8,668	85.8	87.6	23,137	87.7	113.0
カラマツ	3,524	112.7	262.3	3,413	171.3	170.2	6,936	135.5	207.2
アカマツ	2,330	59.6	85.5	392	308.1	40.3	2,722	67.4	73.6
その他	0	*	0.0	328	117.6	90.9	328	117.6	90.1
合計	20,323	87.2	138.6	12,801	102.4	96.7	33,124	92.5	118.8

樹種	燃料用		
	当月出荷量 (t)	前月比 (%)	前年同月比 (%)
スギ	3,081	94.6	76.0
カラマツ	3,052	115.9	119.4
アカマツ	2,962	114.7	166.5
その他	82	116.4	62.5
合計	9,177	107.4	107.7

樹種	今年度累計			
	合板・LVL用 (m³)	製材・集成材・その他用 (m³)	計 (m³)	燃料用 (t)
スギ	30,751	18,768	49,519	6,339
カラマツ	6,651	5,405	12,056	5,685
アカマツ	6,240	519	6,759	5,543
その他	0	607	607	153
合計	43,642	25,299	68,941	17,720
目標達成率 (%)	18.2	14.5	16.6	13.1
計画量	240,000	175,000	415,000	135,000

注) *印は前月又は前年同月実績がなかったことを示す。

【令和4年5月の需給動向】

- スギは各工場、過剰在庫の状況もあり、受入制限がしばらく続く見込み。
- カラマツは需要に対し供給が追い付いていない！よって原木不足の状況は当面続く。
- アカマツは過剰在庫のため、受入制限（調整）あり、この状況は7月頃まで続く見通し。

次に、「ウッドファースト」である。公共建築物等木材利用促進法を法案として提出する際、業界団体への説明を行った。その前年、議員立法として計画されたが、経産族の反対で提出できなかった。そこで、民主党政権になって、再チャレンジをしたものである。この時の大臣は、木

から30年以上前に、「木づかい」のキーワードが生まれ、後に「木づかい運動」の用語が用いられ周知されることとなった。このキーワードが誕生したのは、新たな木の使い方をPRする本の出版が企画され、企業、都道府県、営林局から原稿が集められて、出版の自身が整理された。この時、紹介内容を100個にしたことから、本の題名を「100の木づかい」としたのである。この原稿整理を、入庁したての計画課のM氏に頼んで出来たものである。その後、木材利用推進を図るキーワードとして、「木づかい運動」がオンライン化されることとなったのである。

耳からウロコ

新たなキーワード誕生のいきさつ
ー木づかいとウッドファーストー

今から30年以上前に、「木づかい」のキーワードが生まれ、後に「木づかい運動」の用語が用いられ周知されることとなった。このキーワードが誕生したのは、新たな木の使い方をPRする本の出版が企画され、企業、都道府県、営林局から原稿が集められて、出版の自身が整理された。この時、紹介内容を100個にしたことから、本の題名を「100の木づかい」としたのである。この原稿整理を、

材に関連のある苗字の「赤松」大臣であった。業界団体での説明にあたっては、木材需要が不振の時に、カナダのBC州では、「ウッドファースト法」が作られ、木造ビルの階数上限を引き上げる等法律で木材需要創出を図ったと話をし、ウッドファーストの考え方をベースとしたのである。

とりわけ、市場の全国団体である全市連では、日露戦争の203高地の戦いになるので、法案が通るように、業界も真剣に応援してもらいたいと話した。会場からは、「私たちが先頭に立ってやります」との発言もあり、盛り上がった。こうして、法案は無事成立して、施行されることとなった。その後、全木連を中心として「ウッドファースト社会を目指して」がキーワードとして登場することとなった。「赤松大臣」が名古屋出身で、全木連の鈴木会長も名古屋出身だが、名古屋が別のキーかなあ？このようにして、「ウッドファースト」は誕生したのである。しかし、その前に東京都知事選での「都民ファースト」の方が先行（〇〇ファーストの使い方）したのは意外であった。今では、聞き慣れて定着している2つのキーワードは、このようにして誕生したのである。